

4 県の要求水準に対する評価

郷土の歴史文化を後世に引き継ぐとともに、地域への理解と関心を深める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する

評価項目（1）本県の歴史文化を後世に伝えるうえで必要な資料を収集する

状 況 説 明

高知県の特色のあるテーマである長宗我部、四国遍路、いざなぎ流、四万十川漁業関連等の資料収集を実施した。

<平成27年度寄贈実績>

考古資料：私年号のある「棟札」、「南海トラフ地震・津波碑（徳島県）拓本」

歴史資料：戦前・戦後の絵葉書、幕末期の郷土・辻一族の土地集積、自由民権に関する文書類、『中岡信喜海軍少将日誌』、高知県遺族会収集戦時資料

<平成27年度寄託実績>

須崎市指定文化財の江戸後期の刀剣（糺鴨神社所蔵：南海トラフ地震による津波浸水地域に想定されている）、長宗我部元親・盛親父子書状（盛親の奉行らの連署状書状は江戸期の史料集に紹介されているものの現存が確認されたのは初めてである）、野中兼山の書状、山内忠義の黒印状など

評 価	理 由
A	長宗我部遺臣の去就をテーマに長期に渡る調査を行った成果として長宗我部氏、土佐藩主等の貴重な文書の寄託があったこと、南海トラフ地震による津波浸水想定地域の文化財保護のため引き続き市町村指定文化財の寄託の受入れを行ったこと等、後世に引き継ぐべき文化財の保護・保存に努めたと認められる。

評価項目 (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状 況 説 明

民俗資料については、平成26年度以前の収集資料の一部で整理、分類などが滞っているものがある。

長期間、実物資料を展示することは劣化につながることから、展示替えや複製品の製作などを継続的に実施し、修復にも取り組み資料の保存に努めた。

<保存行為の実績>

居徳遺跡出土の県指定文化財の土偶の劣化を抑さえるため、収蔵庫に一時撤去を行い、平成28年度に複製品を制作し、交代で展示する予定。

高知市の西畑人形の修復を専門研究所に委託して実施した。

刀剣の研磨2口や全ての刀剣の手入れも継続的に実施した。

伝香宗我部親泰所用陣羽織部分の修復をした。

有形登録文化財旧味元家住宅主屋は、年4回程度いろりに火を入れた。

展示室は、ノンエアタイトケースとエアタイトケースを使用して展示し、夏期24度60%、冬期24度55%の良好な保存環境の維持管理に努めた。

収蔵資料・作品は、資料に適した温湿度を保つよう収蔵庫において温度21.5度、湿度57%で24時間管理をした。

評 価	理 由
C	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗資料の未整理、未分類資料の問題については、計画的に整理、分類を行うよう着手したことが認められる。 ・展示・収蔵環境については、公開承認施設として適切な管理を行っており、収蔵資料の修復や複製品作成等を計画的に行い、資料の維持管理に努めたと認められる。

要求水準－調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目（1） 様々な歴史分野の中から題材を絞り、テーマ性を持った調査研究を進める

状況説明

<考古分野の調査研究>

- ・寄託された銅戈に関連した調査報告などを高知県立埋蔵文化財センターとともに行い、『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第20号に掲載した。
- ・土佐藩主山内家墓所の調査について、『第7回大名墓研究会資料』に掲載し発表した。
- ・高知県教育委員会文化財課の依頼により『高知県「四国八十八箇所霊場と遍路道」総合調査報告書 五台山金色院竹林寺 四国三十一番札所』の考察編などに投稿し掲載した。

<歴史分野の調査研究>

- ・東洋町白浜大庄屋明神家文書の史料寄託に関連して、同家所蔵文書の解読、写真撮影を行った。史料の一部は本年度刊行の『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第20号に掲載した。
- ・長宗我部遺臣展の関連調査として、三重県所蔵の桑名家文書のうちの「竹心遺書」と当館所蔵の「桑名弥次兵衛手柄書」を比較検討した結果、「遺書」が各地に若干流布する「手柄書」の原本であることがほぼ確定した。その成果は『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』に掲載した。

<民俗分野の調査研究>

- ・妖怪に関連して「妖怪譚—土佐のエンコウとシバテン—」を『神話・伝承学への招待』へ掲載した。
- ・民具関係では、「廃校で民具を見せる—高知県立歴史民俗資料館の試み—」を『日本民俗学285』に投稿するなど、積極的に中央の学会誌等に研究を公表し、テーマ性を持った調査研究を進めている。

評価	理由
A	国史跡に指定された土佐藩主山内家墓所や世界遺産への登録を目指す四国遍路など注目される調査発表を行っている。

評価項目 (2) 長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する

状 況 説 明

長期(20年)の調査研究の成果として、企画展「大坂夏の陣400年長宗我部遺臣それぞれの選択」を行った。また、以下の講演会や講座で成果を公開した。

高知高専テクノフェロー通常総会 「石谷家文書にみる長宗我部元親の実像」

長宗我部盛親没後400年法要(京都市蓮光寺本堂)「長宗我部盛親の実像」

土佐史談会郷土史出前講座(四万十町)「長宗我部元親と高岡郡・窪川」

若越城の会記念講演会(福井県敦賀市)「長宗我部元親の四国平定戦」 など

評 価	理 由
A	大坂夏の陣400年という機会をとらえて、県内外において積極的に講演活動を行い、長宗我部氏の実像を広めることに努めている。

要求水準－展示・公開

これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、県民の郷土への誇りと愛着を育む

評価項目 (1) 公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行い、5年間で15万人以上の観覧者を目指す

状況説明

企画展にあわせて教育プログラムや講演会を実施したことにより、入館者数は28,989人となり昨年度23,801人を21.8%上回った。

<平成27年度企画展入館者実績>

「前田博史天然写真展 太洋」 4/1～19 入館者数1,752人

「大坂夏の陣400年長宗我部遺臣それぞれの選択」 4/29～6/21 入館者数6,388人

「小さいもの見つけた！－海洋堂のニッポン・ミニチュアカタログ－」 7/17～9/6

入館者数8,687人

「里帰り！土佐の出土品－東京国立博物館所蔵品から－」 10/9～12/6 入館者数3,796人

「おさるの楽園」 1/2～3/21 入館者数4,863人

<平成27年度通常展示入館者実績>

入館者数 3,503人

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・大坂夏の陣400年で全国的に関心が高まった長宗我部遺臣展や夏休みの親子連れ向けの海洋堂とのコラボ展の開催により、入館者数は28,989人となり昨年度を21.8%上回った。・公開承認施設として、東京国立博物館が所蔵する本県出土資料を「里帰り」展として公開した。また、同時期に東京国立博物館で館蔵品を公開することにより、首都圏での館の広報につなげた。

評価項目 (2) 来館者一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状 況 説 明

レファレンスサービスとして、受付に地名辞典や高知県人名事典などを配置し、すぐ対応できる体制をとっている。電話やメールなどの実績は、考古23件・対応時間計13時間、歴史48件・対応時間計33時間、民俗75件・対応時間48時間であった。

学術研究を目的とした資料等の撮影・閲覧実績は31件であった。(考古分野では赤外線調査や資料の閲覧、歴史では長宗我部関係、ブラジル移民関係、戦時資料関係、民俗では、いざなぎ流、民具、年中行事などの調査が多い。)

ミュージアムトークの開催実績

企画展「大坂夏の陣400年長宗我部遺臣それぞれの選択」 5回開催

企画展「里帰り！土佐の出土品－東京国立博物館所蔵品から－」 3回開催

企画展「おさるの楽園」 2回開催

通常展のコーナー展 4回開催

評 価	理 由
A	県立の総合歴史博物館として、様々な質問や調査要請に対して丁寧に対応していることが認められる。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目 (1) 学校との連携による出前授業や校外学習などに計画的に取り組み、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる

状況説明

<教育プログラム(ワクワクワーク)の実績 合計265人(平成26年度226人)>

企画展「大坂夏の陣400年長宗我部遺臣それぞれの選択」

「大太刀(複製)に触ってみよう(甲冑体験も含む)」参加者62人

「土佐民話の家27」参加者30人

企画展「小さいもの見つけた！－海洋堂のニッポン・ミニチュアカタログ－」

「ジオラマを作ろう」2回実施 参加者延べ78人

企画展「里帰り！土佐の出土品－東京国立博物館所蔵品から－」

「ミニチュア鏡をつくってみよう」参加者15人

企画展「おさるの楽園」

「昔遊び」参加者43人

「土佐和紙漆喰張り子こだき申の絵付」参加者37人

<学校教育関係の取組の実績>

・体験学習：勾玉作り(7校)、火おこし(2校)、甲冑体験(3校)、いろり体験(2校)。

・総合的な学習(2校)、学校授業と連動したポイント解説(7校)、展示見学・通史解説と体験学習の組み合わせ(12校)、展示見学とビデオ学習(22校)(以上 来館学校関係計43校2,274人)

・出張授業：火おこし、昔遊び、史跡巡り、昔の道具解説授業(6校、児童クラブ含む)

・職場体験学習：計6校、12人を受け入れ

・バス送迎授業(1校)

・大学との連携：博物館実習で5校(8人)を14日間受け入れた。

評価	理由
A	展示を核として種々の教育プログラムを組み立て開催した。体験学習、出張授業、職場体験学習、実習生の受け入れ等も行った。

評価項目 (2) 県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講座などを開催する

状 況 説 明

<講演会、ミュージアムトーク>

企画展「大坂夏の陣400年長宗我部遺臣それぞれの選択」

三重大学教授 藤田達生氏「藤堂高虎と長宗我部遺臣」 参加者142人

ミュージアムトーク 5回

企画展「小さいもの見つけた！ー海洋堂のニッポン・ミニチュアカタログー」

(株)海洋堂取締役社長 宮脇修一氏「小さいものを作り続けてー海洋堂の50年ー」
参加者70人

(株)海洋堂造形師 松村しのぶ氏「フィギュア造形制作のうらばなし」 参加者70人

企画展「里帰り！土佐の出土品ー東京国立博物館所蔵品からー」

東京国立博物館研究員 古谷毅氏「意外と知らない東京国立博物館」 参加者27人

副館長による講座 「土佐の考古学史と東京国立博物館」

ミュージアムトーク 4回

企画展「おさるの楽園」

郷土玩具研究家 岩見徹氏「災いが去る(サル)ように願いをこめて」 参加者70人

ミュージアムトーク 2回

<職員派遣>

高知市いきいきセカンドライフ講座、土佐史談会、他館の企画展への講演会への派遣

日本精神障害者リハビリテーション学会シンポジウム(四国遍路文化の魅力をテーマに講演)

評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会やミュージアムトークを行うことにより、展示への理解を深めることができた。 ・物部地区での“いざなぎ流“の取り組み等に講師派遣を行い、地域に残る歴史や民俗の魅力を伝えることができた。

評価項目 土佐の歴史に関する積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状 況 説 明

(1) 紙媒体・電子媒体を通じた広報

- ・館のリーフレットや『催物のご案内』を観光案内所、旅館・ホテル等へ積極的に配布し、観光客の目に触れるようにした。
- ・広報媒体は、従来の新聞やテレビだけでなくHPなどのIT関連を積極的に活用した。
- ・集客促進のため、ポスター・チラシの広報物を可能な限り企業（交通機関・協力者等）に配布した。近隣のコンビニエンスストアなどには、こまめにチラシを配布した。
- ・企画展開館の前には、報道機関に取材を依頼し、前日と開館当日にはマスコミ広報できるように努力した。またラジオなどを用いて来館者増に向けた取り組みを行った。
- ・県外に出張する時は、チラシや広報誌『岡豊風日』を持参し、面談者などに配布し広報を依頼した。

(2) イベント等における広報活動

- ・大分県の大野川合戦まつりに南国市観光協会と共に当館のブースを設けて、グッズや当館のPRを行った。
- ・高知市長浜の長宗我部まつり等のイベントに協力するなど館のアピールをした。

(3) 学芸員による広報活動

- ・県外の学芸員と交流し、館の情報などを直接伝えるなどしている。
- ・学術雑誌でも3ヶ月に1回は当館の職員名が掲載されるように研究面でも努力している。

評 価	理 由
A	観光関連施設とのつながりを大切にしながら、広報活動に努めており、県内外の長宗我部ゆかりの地とも連携して広報活動を行っている。

評価項目 (1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状 況 説 明

(1) 四国地区博物館協議会

会長館として「災害と博物館」をテーマに総会を開催し、県内の博物館施設に対して先進的な取り組み等を紹介することができた。

(2) 東京国立博物館「考古資料相互活用促進事業」

東京国立博物館に所蔵されている明治時代から昭和に寄贈や購入された高知県内の出土品や陶磁器を県内で初めて公開した。高知県からは土佐市居徳遺跡の県指定文化財等を東京国立博物館で公開した。

(3) 他館への支援

歴史部門では、本県の著名な歴史家寺石正路と関わりのある南方熊楠顕彰記念館の資料調査に協力した。

考古部門では、中岡慎太郎館で開催した企画展「北川村の文化財－神社仏閣を中心として－」に協力・指導した。また、講演会講師としても協力した。

評 価	理 由
B	東京国立博物館との連携事業や中岡慎太郎館の企画展への指導・協力によって、県民サービスの向上に努めた。

評価項目 (2) 岡豊山周辺を歴史的な好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携した取り組みを通じて地域の活性化に貢献する

状 況 説 明

(1) “長宗我部”を核とした歴史ファンの形成

長宗我部関係資料を展示している「長宗我部展示室」は、常に展示内容が充実するように複製品を製作して展示替えができるようにしている。長宗我部展示室の存在が徐々に浸透してきており、県内外の歴史ファンが訪れ、国史跡岡豊城跡と併せて見学者もあり、当館の見所の1つとなっている。

(2) 国史跡岡豊城跡を活かした地域住民との連携

「岡豊山さくらまつり(土佐の食1グランプリ会場)」、「長宗我部フェス」、「れきみんの日(開館記念日、無料開放事業・博物館の日)」、「岡豊山の夏まつり」のイベントを開催した。

イベントは、土佐のまほろば地区振興協議会、地域ボランティア、岡豊地区各自治会、地域女性グループ、カルチャーサポーターなど多くの協力を得て実施し、地域連携の一つとなっている。

また、土佐のまほろば地区振興協議会による「まほろばウォーク」も好評で、定員を超えることもある。

(3) “いざなぎ流”を通じた物部地区(香美市)との連携

平成24年度発足した「いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会」の事業として、香美市物部町において、里巡りや旧大柝高校民俗資料の一般公開を実施した。

評 価	理 由
A	「長宗我部」、「いざなぎ流」など特色あるテーマを活かし、住民グループの協力も得て地域の活性化に貢献できたと認められる。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をととして、故障や事故のない運営を行う

評価項目		
(1) 適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

<社会的責任>

・個人情報の管理について、(公財)高知県文化財団の個人情報保護規定により適正に運用した。

<建物や設備の管理>

- ・空調等の機械設備は業者に委託し、定期点検を実施
- ・スクリーンプンプ空気熱交換機ファン取替(県実施)
- ・来館者用トイレのウォシュレット便器への交換(館実施)
- ・館内の環境管理は、展示室等の温湿度の変化のデータ等の情報交換を毎日委託業者と実施している。
- ・清掃ではおもてなしトイレとして委託業者が常に花をトイレに設置している。

<危機管理>

- ・警備・環境管理委託業者と自衛消防団を組織し、「風水害等の配備基準及び職員体制」により、連携対応をしている。夜間緊急時は警備会社より職員の連絡網を利用し対応できる体制を組んでいる。
- ・緊急備蓄物資を準備している。
- ・年2回職員による消防点検を実施し、年1回消防署の立ち会いで避難訓練を実施している。
- ・盗難・不審者対策として、館内に監視カメラを配置し、総務事業課、警備室で監視が可能となっている。委託警備員とは1日数度は警備状況の確認し、閉館時は、職員が交代で館内を見回り、異常があれば報告と『業務日誌』などに記録を取っている。
- ・職場体験や博物館実習時の初日に避難経路を確認、経路を記憶してもらうなど指導もしている。
- ・職員研修は、毎年「国宝・重要文化財(美術工芸)防災・防犯対策研修会」に職員を派遣し、防災・防犯対策に活用している。

評価	理由
B	概ね適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目		
(2) 利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映、自己点検、評価の状況 ・職員の専門性の向上	・事故、クレームへの対応 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明		
<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートにより、どのような企画展の要望があるのかを把握するように努めた。 ・事故が発生した場合には、速やかに上司に報告し対応する体制を取っている。クレーム対応も速やかに対応している。 ・職員の専門性の向上のため、県外での研究発表などの活動をしている。 		

評価	理由
B	概ね適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目		
(3) 利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明		
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は多様な企画展を開催した結果、観覧者目標24,000人に対し、実績28,989人と目標を大きく上回った。 ・岡豊山歴史公園への来館者目標は28,000人に対し23,349人であった。 ・平成27年度の学校来館数は38校で1,811人、高齢者団体は22団体で390人、病院やデイサービスの利用は16団体280人であった。 		

評価	理由
A	観覧者数は目標に対し121%の実績であり、大きく目標を上回った。

評価項目		
(4) 収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<p>・入館者増に伴い、料金収入が5,667千円(平成26年度4,358千円)で対前年度比130%となった。</p> <p>・経費の中で主な割合を占める電気料について、不要部分の消灯・間引き・W数低減・LED化・バックヤード部分の昼間消灯により、使用量抑制に努めた。</p>

評価	理由
A	入館者の増加に取り組んだ結果、料金収入が前年度を上回った。

総合評価

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の多様なテーマ設定をはじめ、職員全員体制での広報活動などにより、目標を上回る入館者実績を上げることができた。 ・長年の「長宗我部」研究の成果を企画展の開催につなげることができた。 ・物部地区で発足した「いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会」との連携を進め、地域活性化に貢献できた。 ・懸案事項である民俗資料の整理については、3カ年計画に則って進めている。 ・その他の管理運営については、概ね要求水準どおりであったと認められる。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。